

知っていますか？ヒトメタニューモウィルス感染症

ヒトメタニューモウィルス感染症とはあまりききなれない感染ですが、実は子供の呼吸器感染では比較的多い感染症です。1～3歳の乳児の間で流行する事が多いのですが、大人にも感染します。乳幼児や高齢者では重症化することもあり、注意が必要です。今回はヒトメタニューモウィルス感染症のお話です



Q1. どんなウィルスですか？

乳幼児期に気管支炎や肺炎を起こす呼吸器感染ウィルスです。小児の呼吸器感染の5～10%を占めるとされています。ウィルスの遺伝子も症状もRSウィルスに非常によく似たウィルスです。

Q2. 症状は？

38～39度の発熱とともに咳、鼻汁があり、次第にゼイゼイ(ヒューヒュー)といった呼吸や呼吸困難の症状が現れます。RSにくらべ高熱が出る事が多く、熱は4～5日続きます。咳、ゼイゼイの症状は1週間～10日ほど持続します。

Q3. いつごろ流行りますか？

冬から春先に流行が始まり、梅雨の頃までつづきます(RSやインフルエンザの流行が終わった3～6月の発生が多いです)。

Q4. 診断は？

鼻からの迅速検査にて15分くらいで診断ができます。2014年から6歳未満でレントゲンなどの画像診断で肺炎が疑われる場合は保険が適応されます。6歳以上の場合は有料(自費検査)となります。

Q5. 治療は？

ワクチンや特効薬はありませんので、症状を抑える治療が中心です。気管支を広げる薬を内服・吸入します。症状がひどい場合は点滴による治療をします。自宅ではこまめな水分補給や、部屋の加湿が大事です。



Q6. 感染予防は？

手指に付着したものや飛沫したウィルスによって感染するので、手洗いや手指消毒、うがいなどが基本的な予防になります。

Q7. 保育園や学校での出席停止は？

熱が下がって、咳が落ち着いてくれば登園・登校してかまいません。咳がのこる場合はマスク着用し、手洗いをこころがけましょう。

Q8. 一度かかったら、もうかかりませんか？

一度の感染では免疫がつかないので乳幼児期に何度も感染することがあります。大人は免疫があるのでなぜ症状がでるだけです。

※細菌の同時感染にも注意

ヒトメタニューモウィルスと同時に細菌にも感染してしまう事も少なくありません。ヒトメタニューモウィルスに感染し、熱が4日以上続く場合は、細菌にも感染している可能性があり、その場合は、抗菌薬が必要となります。熱が長引く時は中耳炎や細菌による肺炎などをおこしている事があるので、もう一度早めに受診をしましょう。

3月から6月は流行のピークです

ヒトメタニューモウィルス感染症は、1年中発症が確認されていますが、3～6月にかけては、とくに感染者数が増加する傾向にあります。春先から梅雨の時期までは、保育園・幼稚園や小学校で流行がないかどうか、注意しましょう。

